

猫の誤飲事故対策～猫じゃらしの誤飲を収納ケースで減らす～

大阪教育大学附属高等学校池田校舎 3年 山本彩詠

Abstract

ペットの疾患の一つとして誤飲が挙げられ、特に、猫はひもやおもちゃを誤飲しやすく、猫じゃらしのような紐状異物は深刻な症状になることもある。そこで、本研究では、日本で広く用いられている猫のおもちゃである猫じゃらしの誤飲の症例を分析することで、誤飲事故を減らすための効果的な対策方法を明らかにする。分析の結果、猫じゃらしを含む猫のおもちゃの誤飲は、飼い主が猫を見ていない間に発生していることが多く、飼い主がおもちゃを片付けていたにもかかわらず、誤飲事故が起こっている場合があると明らかになった。そのため、飼い主の効果的な猫じゃらしの片付けを促すために、猫じゃらし収納ケースを開発した。

研究背景・意義



画像 1

猫の誤飲事故件数

消化管内異物と誤飲は0~4歳の猫の好発疾患の第5位で、1年間の誤飲事故による保険請求は6039件と誤飲事故は少ない（※1, ※2）。また、猫は紐とおもちゃを誤飲しやすい（※7）。

猫じゃらし誤飲時の症状

腸閉塞や腹膜炎などを引き起こし、開腹手術が必要になることがあるため、猫じゃらしの誤飲は猫と飼い主にとって負担となる。

先行研究

- ①飼い主が外出中、猫じゃらしを遠隔操作し、猫と遊ぶことで、体調を把握するシステムの開発（※4）
- ②タブレット端末上で、猫じゃらしと同じ動きを再現し、猫が端末に触れることで、飼い主のパソコン操作中も退屈せずに遊べるシステムの開発（※5）
- ➡ 猫じゃらしでの遊びの安全性を向上させる方法とは？
- ③猫が誤飲したとき、獣医師がよく聞く言葉として、「気をつけていた」「片付けていたのに」「見ていない間に」という趣旨の言葉が挙げられている（※6）。

研究方法

- ①猫じゃらし、紐、その他のおもちゃの誤飲事故事例を分析し、猫じゃらしの誤飲を減らす方法として何ができるか検討する。
- ②①の結果を元に、解決方法を提案する。
- ③提案した解決方法を評価し、改善する。



画像 3

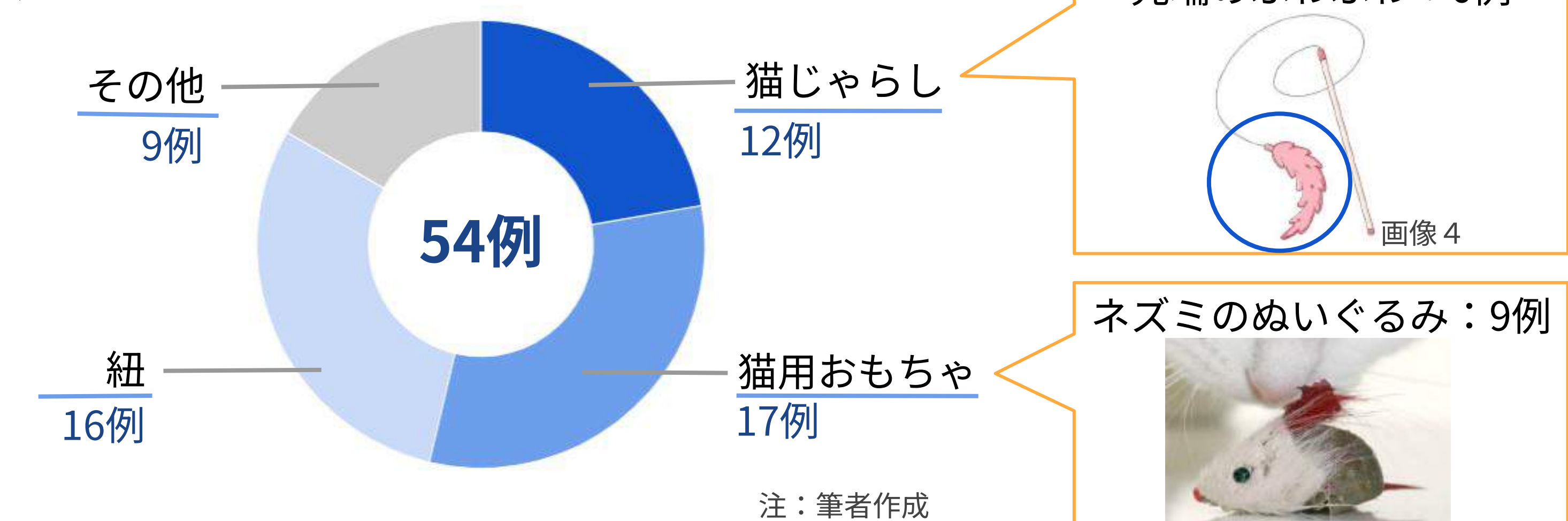
誤飲事故事例分析

分析方法

「猫じゃらし 誤飲 症例」で検索し、主に動物病院のHPから症例を調べた（54例）。
項目：猫の雌雄・年齢・種類、飼い主の申告、治療、おもちゃの種類・形状

分析結果

◆猫の誤飲の症例数



◆誤飲のタイミング

猫が誤飲したことに飼い主が気づいているか否か	誤飲のタイミング	件数
気づいている	飼い主が誤飲現場を目撃した	1
	飼い主が誤飲現場を目撃していない（猫だけで遊び中）	7
	不明	3
気づいていない	—	11
その他	「まさか食べていないだろうと思って」	1
計	—	23

猫じゃらし9例、猫用おもちゃ12例、紐1例を分析した。注：筆者作成
全症例中、飼い主の証言により誤飲のタイミングが分析できる症例を対象とした。

飼い主が誤飲に気づいた理由として、おもちゃ全体または一部が無くなっていることが挙げられている。

猫じゃらしやおもちゃを誤飲した事例で、飼い主が「棚にしまっていた」「猫のおもちゃの袋が破られていた」と証言していたものがある。

考察

- ・先端のふわふわとネズミのぬいぐるみをよく誤飲している。このような形状のおもちゃが多いことが原因である可能性もある。
- ・飼い主が見ていないときに誤飲していることが多い。
- ・片付けていたのに誤飲事故が起こっている。

解決策の提案

問題点

- ・おもちゃを片付けていない、もしくは、片付けが十分に効果を発揮していない。
- ・猫じゃらしは柄が長く、紐がついている場合があり、片付けにくい。
- ・猫が勝手におもちゃを取り出してしまう。

➡ 誤飲事故が発生

解決策

猫じゃらしの最適形状の決定



画像 6

飼い主の片付けに対してアプローチする



画像 7

効果的に猫じゃらしを片付ける方法

猫じゃらしと猫じゃらしを片付けるケースをセットで販売する。

➡ 片付けの重要性を認識させる。
+猫が取り出しにくい安全なケースを提供。

従来の猫じゃらし販売方法（右の写真）

- ・厚紙に挿したり、ビニール製の袋に入れられて販売されている。
- ・一部のものはプラスチック製の円柱形の筒に入れられて販売されている。
- ・裏側に誤飲した場合は獣医師に相談することや、飼育者の監督の元で使用することが取り扱い上の注意として書かれている。

従来の猫じゃらし販売方法



注：筆者撮影

猫じゃらしケースの作成

猫がおもちゃを取り出す方法

- ・口でおもちゃをくわえる。
- ・爪や手に引っ掛けて出す。

最適な形状の仮定 ・蓋付き ・ロックがかかる ・プラスチック（丈夫な素材）

試作品 複数の形状案の中で、最も保管しやすい形状で、人間が開けやすく、猫は開けにくいと考えられるものを実際に作成した。



◆ロックの仕組み



注：筆者撮影

両側から同時に指で押すと開く。

開いた様子



注：筆者撮影

人間



画像 8

親指と人差し指が向かい合う。



➡ 開けられる。

猫



画像 9

親指と人差し指が向かい合わない。



➡ 開けられない。

検証と評価

I 猫が箱を開けることができないか。

- ①ケースが倒れたときに蓋が開かないか調べる。
- ②猫の手と口の模型を使ってケースの蓋を開けることができるか調べる。
- ③実際に、猫が蓋を開けられないか調べる（理想）。

II 人間が猫じゃらしを出し入れしやすいか。

実際に猫じゃらしを出し入れしてもらい、入れやすさ、取り出しやすさ、蓋の閉めやすさを評価してもらう。

III猫じゃらしと収納ケースをセットにすることは、飼い主の心理に影響を与えるか。

アンケート調査で、現在の販売方法とケースつきで猫じゃらしを販売する方法を見比べたときに、差があるか調べる。

結論・展望

猫の誤飲事故の症例分析から、一部の誤飲が、飼い主が猫を見ていないときに起こっており、おもちゃを片付けていたのに誤飲してしまったという症例も見られた。そのため、今後は、効果的な猫じゃらしの片付け方を探求することで、誤飲事故を減らすことを目指す。また、猫じゃらしケースのデザインを検討し、より飼い主が猫じゃらしを片付けたくなるよう、工夫する。猫じゃらしケースの開発を通して、より多くの人に猫の誤飲事故の現状を知ってもらい、事故を減らしていきたい。

参考文献

- ※1 アニコム「家庭どうぶつ白書2025」制作チーム (2025)「アニコム家庭どうぶつ白書」pp.63
 - ※2 アニコム「家庭どうぶつ白書2024」制作チーム (2024)「アニコム家庭どうぶつ白書」pp.60
 - ※3 荒川真紀、安達彩弥加、齋藤七海、渡辺真由、下里あすか、茂木千恵 (2023)「日本におけるネコに使用されるおもちゃと遊びの頻度に関するアンケート調査」、『Veterinary Nursing』, 28巻・1号
 - ※4 安齊クレア、的場やすし、椎尾一郎 (2015)「いたねこ：痛みを伝達する遠隔猫じゃらしインタフェース」エンタテインメントコンピューティングシンポジウム2015論文集 pp. 372-377
 - ※5 佐々木梨菜、鈴木優 (2018)「PC操作とタブレットを用いたインタラクティブ猫じゃらしの試用実験」第80回全国大会講演論文集 pp. 595-596
 - ※6 島村麻子 (2012)「犬、猫の誤飲：傾向と対策【傾向編】」, アニコム損害保険株式会社 HP, <https://www.anicom-sompo.co.jp/prevention/stopgoin/pdf/120206.pdf>（最終閲覧日：2026年7月16日）
 - ※7 ペットメディカルサポート株式会社 (2023)「犬が誤飲しやすいもの2位は「玉ねぎ」。1位は？」ペット保険『PS保険』調べ, PR TIMES HP, <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000100.000057917.html>（最終閲覧日：2026年7月20日）
- 画像1～9はCanvaにより作成